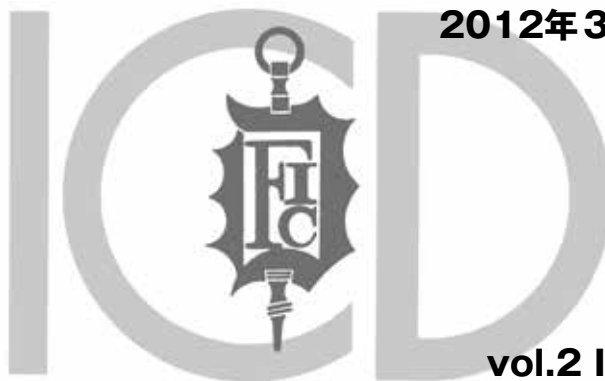


The Newsletter of International College of Dentists JAPAN Section



vol.2 Issue 1

身の丈に合った会務執行



このたび、会員支援委員会のご尽力により、ニュースレター2号を発行することが出来ます事は、大変有意義なことであり、この紙面でフェローの皆さまにご挨拶出来ますことを喜んでおります。

2010年度は、東日本大震災を経験いたしました。 (社) ICD 日本部会 (以後、本会) ではフェローの皆様のご理解・ご協力を賜り、被災者・被災地の復旧・復興活動支援に協力することができ、微力ながら社会的責任を果たすことができました。

本会の役員、委員会委員およびフェローの皆さまには、2年間の会務遂行にあたって種々のご不便をおかけしたことと思われませんが、2010年度および2011年度の2年間にわたり決算が黒字になりましたことは、身の丈に合った予算編成と健全な会務執行ができたことによるものと感謝しております。

私は、50有余年の歴史ある本会の健全な発展をめざして、会長として2年間の任を全うすることができましたが、これもひとえにフェローの皆様のご理解、ご協力、ご支援によるものと深謝申し上げます。

(社)ICD 日本部会 会長 天野 恵

法人の会計状況について

一昨年、IHICD日本部会より300万円の拠出を受け、これを基金として一般社団法人がスタートしましたが、法人初年度の昨年度は事業部の先生方や事務局の努力によって単年度で40万円の黒字を出すことができました。

法人2年目の本年度は、天野会長が目指す「身の丈に合った会務執行」をさらに推進すべく、会費の値下げや総会・認証式および年末集会での当日会費の減額などを行い、会員の皆さんの負担の軽減を図る一方、事業部のさらなる執行努力により支出の削減に努めた結果、本年度の会計はまだ締めていませんので、正確な数字は総会

での決算報告を待つにしても、概略350万円ほどの単年度黒字を計上できそうな状況です。

会を安定的に運営していくためには次期執行部のさらなる努力が必要と考えますが、これも会員の皆様のご協力があって達成できるものと思っています。

ちなみに、IHICD日本部会 (ICD日本部会振興会に名称変更) には約1300万円のお金が手つかずに残っています。今後、このお金を法人として有効に活用する方法も検討していく必要があるのではないかと考えています。

財務主事 根岸達郎

2012年度
総会
認証式

日時 2012年5月19日(土) 13:00~19:15
場所 東京アメリカンクラブ 東京都港区麻布台2-1-2
会費 フェロー本人..... ¥20,000
同伴者(1名につき)..... ¥15,000
総会 法人初の新役員が決まります
特別講演 「東京スカイツリー建設物語」(株)大林組
アトラクション アンサンブル デュナミス コンサート

登録
しましたか?

“国際的視野” に立って

国際理事は、国際本部への“連絡係”と見られているようであるが、実際には“国際的視野”に立って活動するという職制である。すなわち国際理事会は、各部会の“利益代表”の会ではないと、この場を借りて改めて申し上げたい。

ICDは、良識ある歯科医師の“国境なき”団体であり各部会は“国際”も念頭に置いて活動すべきであろう。このように考えると、国際理事の職責は非常に重く、自身、身が引き締まる。私は国際理事会のConstitution & Bylaw Committeeに所属する。この委員会では月に2回ほどのメール交換があつて、出張なき国際会議が行われている。国際理事には年1回の国際理事会に出席すること、隣接国々の認証式へ表敬訪問することが課せられている。私は、昨年事情がありインド・ニューデリーでの国際理事会に出席できなかったが、ミャンマー部会の認

証式に表敬訪問して交流に努めた。また、個人的交流を持つモンゴル歯科界のICD活動に側面支援が出来たと思っている。

国際理事 千田 彰



国際交流委員会

日本におけるいろいろな状況が2011年3月11日以後すっかり様変わりしてしまいました。東日本大震災です。そして福島原発も起こりました。テレビに流れる現実想像を絶するものになってしまいました。ICD日本部会の総会も「止めるべきか、実行すべきか」会長をはじめ事務局長、幹部そして事業運営委員会の皆様の苦悩はいかばかりか……。

縮小して行う事になりました。さて国際交流委員会は怎么样了か？

外国から留学生を招待すること。韓国・台湾・ミャンマーからの来賓のみならずと共に交流会を開催することが任務でした。それまでは活発に意見交換をしていた委員会もすっかり沈んでしまいました。共にやむなく中止。「我々の出番はないのねー」

年末集会の初めての試み、趣をかえてバングラデシュから留学中であり、我々委員会のモミンさんに講演をしていただきました。「結構おもしろかったぞー」との声。天野執行部における国際交流委員会の大きな思い出です。

国際交流委員会 常任理事 隅田百登子



改革推進委員会

任意団体であったICD日本部会が一般社団法人となったことが大きな改革の一つと言えよう。法人化によって定款諸規則等も変更になったが、目的は歯科界にあって、リーダーと成り得るべく、切磋琢磨する仲良しの集まりであることに変わりはない。口腔の機能の重要性は国民に広く理解されつつあるが、歯科医療に対しての適正な評価は得ていない。

そのために、ICD日本部会はより効率的な歯科医療、保健の重要性を国民に、国政に、行政に訴えるヒントを提供し得る組織と思う。本委員会は、会長から諮問を受け、諸規則の整備をし、答申することは当然であるが、それらの業務が全てとは考えず、ICD日本部会の組織力を発揮するための事業を効率的に、円滑に行うための方策を積極的にフェローに提言し、常に前向きに思考する委員会として活動すべきと考える。

改革推進委員会 常任理事 富田 篤

広報・編集委員会

フェローの皆様に原稿、写真のご提供をご協力頂きまして、本当に有難うございます。

広報・編集委員会は、ICD日本部会の雑誌発行・HPの編集及び総括を行っております。天野執行部においては、「身の丈に合った会務執行」というテーマの元に、儉約致しました。HPの業者さんを変更することにより経費の削減、運営の見直しを致しました。

雑誌は、広告を12社のせることにより、広告料を頂き、収入につなげることが多少ですが出来ました。1年に1回の発行ではありますが、60周年誌を見据えて委員一同がんばってくれております。

昨年は東北関東大震災が3月11日にあり、被災した皆様には、本当にお気の毒で、心が痛みました。一年が経ち、まだまだ大変な状況ではございますが、「日本は一つ」のスローガンのように、がんばって頂きたいと念じております。大震災のことでICD事業運営も縮小し、本年度の雑誌に関しましては「特集」をすることになりました。以上、本年度の報告を致しました。

広報・編集委員会 常任理事 佐藤まゆみ

総会・認証式

2011年度総会・認証式は、3.11東日本大震災の影響で、認証式・懇親会のみを伝達式・食事会と形を変え、5月21日（土）リニューアルしたアメリカンクラブで開催されました。

総会では会計規程と年会費改正（値下げ）が承認されました。伝達式では、新フェローに認証状が手渡され、バングラデシュの留学生モミンさんによる新フェロー宣誓が行われました。また、初の試みである新フェロー夫人を交えての夫人の集いや立食パーティ形式の食事会では、和やかな交流が行われました。

天野会長には、当会にふさわしく国際的ステータスを備えたアメリカンクラブをご紹介いただき、また日頃は事業の運営を温かく見守っていただき、委員一同心より感謝申し上げます。

事業運営委員会 総会・認証式担当理事 福本顕嗣



年末集会

2011年度年末集会在、12月17日（土）帝国ホテル孔雀西の間で開催されました。先ず、大震災の影響で新フェローの認証式が華やかに演出できなかったため、改めて執行部4役もタキシードにガウンを着用して、入場の新フェローを迎え、1人ずつ自己紹介していただいた。その後写真撮影があり、次いで新フェローのモミンさんによる自国バングラデシュの歯科事情について小講演がありました。



アトラクションは声楽家の橘今日子さんにより「オペラの楽しみ方、お教えします♪」という題名で講演と実演が行われ、オペラでは悪役を演ずることが多いという講演者が、バラ一枝を口にしてカルメンを熱唱されたのが感動的で、聴視者を魅了しました。

懇親会冒頭の天野会長の「今年度の会計も黒字に出来そうです。」という晴れ晴れしい挨拶が印象的でした。二次会では、夜の銀座に繰り出し、スナック寄せ集めビルの一室を借り切り、総勢30名近くのほとんどが次々にカラオケを披露して盛り上がりました。

事業運営委員会 常任理事 和泉一清

冬期学会

2011年度第42回冬期学会は、中部支部が担当で、2012年1月22日（日）名古屋安保ホールにて開催された。テーマは「これからの歯科界を考える」—歯科医師過剰を顧みて—という事で、近年、私達の歯科界は、決して良い環境とは云えず、この状態を打破すべく日本大学歯学部尾崎哲則教授、教育問題研究家 木村誠氏、ICDフェロー須賀康夫氏の3氏によるパネルディスカッションを行い、今後の日本の歯科界にICDから一石を投じたいと考えました。それぞれの立場から「大学の入口を狭めるべき」、「社会的位置づけを変えなければ、歯科医師人口を減らしても改善しない」、「高校への働きかけや、奨学金制度の見直しも必要」との意見がだされた。当日は、



100名の参加者で会場は超満員で、最後まで中座する事なく熱心に拝聴されました。2月7日号の日本歯科新聞に今回の冬

期学会の内容が以下のように掲載された。「29ある歯科大学・歯学部を18～20校に統廃合すべき」という見出しで3氏の講演が紹介された。



学会終了後、懇親会場は、ホテル・キャスルプラザに移動し、中部支部 大口弘和フェローの司会進行で先ずトロンボーン演奏より開宴となった。開催支部、近藤俊彦支部長から3氏の講師への謝礼、学会に参加されたフェローへのお礼、開催地中部支部役員への労いの当日3回目の挨拶、続いて中部支部 松井康フェローの乾杯の後、水谷忠司フェローの誘導で出席者全員より話を引き出し、宴は最高潮になった。

第42回冬期学会中部支部実行委員長 松崎正信

冬期学会前夜祭！ 一白魚と蛤と松阪牛一

2011年度の冬期学会は、中部支部が運営することになり、会員支援委員会は大金常任理事の提案もあり、有志による前夜祭をすることになりました。場所は名古屋から近鉄特急で一駅（16分）の三重県桑名。そこで桑名生まれ桑名育ちの自称「桑名の観光大使」である私が企画、お迎えすることになりました。この季節この時期しか食べられない幻の高級魚“白魚”の最盛期です。そしてもう一つ言わずと知れた桑名の名産物蛤も一番おいしい時でもあります。この二つの組合せでの絶品の“鍋料理”（地元では浜鍋と云う）これを出せるのは割烹“日の出”。そこにもう一品松阪牛のステーキと云うメニューでの前夜祭となりました。

東京からは新幹線で天野会長ご夫妻を始め続々とメンバーが名古屋駅到着後すぐに桑名へ移動。そして桑名では近藤中部支部長始め中部から参加された先生方も合流して総勢24名の前夜祭が始まりました。



メンバーが名古屋駅到着後すぐに桑名へ移動。そして桑名では近藤中部支部長始め中部から参加された先生方も合流して総勢24名の前夜祭が始まりました。

まずは「白魚の紅梅煮」（酒と醤油で煮たもの）が出され、鍋にはうす味のだしの中にまっ白に煮上がった白魚。ふんわりと上品な味。次に「桑名産の地蛤」が鍋に入れられると女将が頃合いを見計らって取り分けてくれます。その身はつやつやとふっくらしてだしと共に味わうと、プリプリの身は甘く口中に深い味わいが広がり、皆さん感嘆の声を！まさに「口福」そのものです。鍋を味わって頂いた後は、元気一杯のフェローの皆さんに、桑名柿安の松阪牛のステーキを一品。ぶ厚いヒレ肉をひとかけらのニンニクの蒸し焼きと共に鉄板でジュージュー！ナイフは用意されていてもお箸だけでほどける程のやわらかさ。ヒレ肉と言っても程良い“サシ”も入り、口の中には松阪牛特有の甘さが広がります。この三品を食する先生方はさらにお口の方も滑らかになり本当に楽しく語り、時間の経つのも忘れ、明日の学会に向けての英気を養われたようです。

本当に遠路はるばるご参加頂いた先生方に感謝申し上げます。

“明けぼのや 白魚白きこと一寸” 芭蕉
“その手は桑名の焼蛤” 東海道中膝栗毛 桑名宿

会員支援委員会 理事 水谷忠司

天野会長を囲んでのお花見会

会員支援委員会では平成24年3月31日、上野恩賜公園の中ほどにある、鰻の名店伊豆栄「梅川亭」にて花見会を開催しました。

例年になく開花が遅かったため桜を愛でる散策は中止になりましたが、会場には小坂橋事務局長のはからいで満開の桜が飾られており、花見の宴の趣を堪能することができました。上野で開業の当委員会村岡委員からは琴の演奏が心づくしとして供され、座は華やいだ雰囲気になりました。

天野会長より日頃の活動に対する慰労の言葉をいただき宴が始まりました。ニューフェローの積極的な参加が

ありましたことは誠に喜ばしく、この機会にと改めて自己紹介を参加のフェロー全員でいたしました。予想以上に意外な面を知り合う機会となり、総勢26名の宴は、大いに盛り上がりました。

当委員会では、これからも会員相互の交流を深める企画をしてまいります。ご参加をお待ちしています。

会員支援委員会
委員長 佐藤恭子



< 新フェロー推薦のお願い >

2013年度 新フェローをご推薦くださいますようよろしくお願い申し上げます。
書類は事務局までご請求ください。締切りは12月末日です。